

富士通 カルテや診断画像、まとめてAI分析

2018年1月24日 13:55

富士通は24日、京都大学と医療分野で人工知能（AI）を活用する共同研究を始めると発表した。電子カルテや論文、診断画像など様々なデータをまとめて分析する技術を確立し、高度な診断支援や新薬開発につなげる。

京大大学院医学研究科に共同研究チームの「医療情報AIシステム学講座」を設置して2年間活動する。京大が持つ電子カルテ、がん患者データ、公開されている論文や診療ガイドラインなどをデータとして利用する。

コンピューター断層撮影装置（CT）をはじめ医療現場で扱うデータの保存には様々な形式があり、膨大なデータを生かす上で課題となっている。共同研究ではまず富士通のAIを活用し、多様なデータの形式をそろえる。

医師によってばらつきがあるカルテの表現方法をAIの自然言語処理で推測して統一する。

電子カルテやCT画像などのデータを横断的に分析し、病歴から効果的な処方箋を提案したり、生活習慣に基づいてかかりやすい病気を判別したりと、個人に合わせた診断ができるようにする。診断の質向上や時間短縮につながるとみている。